

「…。おかやまコープとは『アムダが世界の災害のために飛び立つ時は最低50万円は出します』という協定を結んでいるんですね。で、東日本の大震災では、何回も食料品を出してくださった。おかやまコープは一度潰れかかって、それがもう一回伸びてきたんです。理事長の三橋（幸夫）さんに聞いたら、『私は一つだけ約束しているんです。嘘を言わない』。これを信条として、組合に言ってきています』と。『信用』と『信頼』という言葉があります。どう違うのかと言いますと、信用の反対は『騙す』ということ。『信用』と『信頼』の反対は『裏切る』ということ。騙す騙さないは、お金の問題です。

裏切る裏切らないは、継続、存在の問題なんです。で、国際社会では、いろんな人と付き合う時の第一条件は、信用されること。だから、国際社会では嘘を言ってはいけない。これ、三橋理事長の言われていることなんです。でも、もっと大切なのは、本当に良い付き合いをしようと思うと、信頼されなきゃいけない。信頼というのは、本当のことが言える仲間なんです。でも、これはビジネスにも繋がってきます。いろいろなことを動かしますから、国際社会の常識は『嘘は言っちゃいけないけれども、本当のことを言う必要はないんだ』と。でも、今回の東日本で多くの人を助ける中で、私は

思いました。おかやまコープさんは、嘘は言わないし、本当のことも言ってくれる。ということ、今までは信用というレベルの協定でしたが、これを機に、おかやまコープとアムダは、信頼ということまで行ったわけです。

三つ目が『パートナーシップ』、夫婦関係です。すなわち、良いことも悪いことも一緒にしましょう、と。で、『ありがとう』という言葉がありますけれども、友達関係では基本的に、ありがとうという言葉はいりません。親子関係とかのスパンサーシップ、これは、子供が親に一方的

ら、三つ目が『パートナーシップ』、夫婦関係です。すなわち、良いことも悪いことも一緒にしましょう、と。で、『ありがとう』という言葉がありますけれども、友達関係では基本的に、ありがとうという言葉はいりません。親子関係とかのスパンサーシップ、これは、子供が親に一方的

わざわざ結婚して、苦労まで共にするのか。良い時だけの恋人関係が一番いいんじゃないか。なぜ、その恋人関係を断ち切って、苦労を共にする人間関係に入るのか。結婚すれば、子供ができる。小さい時は3時間おきに、胃の中が空きますので、ギャアギャア泣きますし、おしっこもするし、病気もする。お金もかかる。そうすると夫婦の貴重な時間とお金、全部つき込んでいきます。そして、大きくなって、下手をすると殺されるかもしれない。そういう人もおるわけですね。それから親も、30年、40年すると、認知症でありもしないことを言ってみたり脳卒中になって介助がいるようになる、自分の貴重な時間と、どこかへ行くと思っても、親のために残らないといけない。それでも、どうして、結婚をするのか。それは、苦労を共にするということがわからないと、これはもう、別れたほうがいい、となりますよね。

で、私たちは、どうして、アジアの30か国の医師団と一緒に苦労を共にしているのか。苦労を共にする、すなわち、苦労を解決する間に自分がない物を相手に見た時に『尊敬』という念が起ります。そして、どんなに苦労が厳しくても相手が逃げないことがわかった時に『信頼』という言葉が出るんですね。この尊敬と信頼という人間関係になって初めて人間は育ちも性別も年齢も環境も違った者同士がやっていける。だから、苦労を共にするんだと思うんです。…」

## 苦勞を共にするパートナーシップ 尊敬と信頼で成り立つ夫婦関係

こういうふうに、苦労を共にする時に、本当のことがわかってくるんですね。

私の独断ですが、人間関係というのは三つしかありません。それは、まず『友達関係』。そして、一方的にしてあげる、『スポンサーシップ』。親子関係とか、学校の先生と生徒のような関係。それか

にありがとうと言わなきゃいけない。夫婦関係のような、良いことも悪いことも共にする人間関係においては、双方がありがとうと言わなきゃいけないんですね。

この三つの人間関係で、パートナーシップだけが『苦労を共にする』というのがありません。どうして人間は、